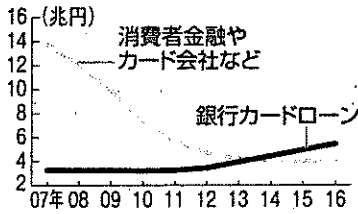


けいざい+

カードローン貸付残高の推移
日本銀行、日本貸金業協会の資料から



今年19日、大手銀行のホームページから、記者がカードローンでの借り入れを申し込んだ。
氏名、住所、勤務先、収入、他の借金の有無などを記入して送信。審査結果は1時間あまりで電話で伝えられた。限度額は300万円、金利は年7・6%。免許証を持って、銀行のATM（現金自動出入機）コーナーに行けば、専用の機械でお金を貸すという。
なぜ銀行は簡単にお金を貸してくれるのか。背景にあるのが「保証業務」という仕組みだ。多くの銀行のカードローンは「保証人は不要」としつつも、「保証

銀行カードローン下

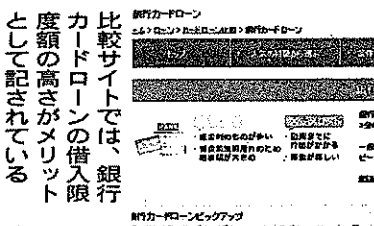
早い審査裏に消費者金融

貴重な収益源 消費者置き去り懸念

会社の保証を受けること」を利用条件としている。「保証会社」は、消費者金融会社などの貸金業者だ。メガバンクのカードローンでは、三菱東京UFJ銀行がアコム、三井住友銀行はSMBCコンシューマーファイナンス（プロミス）、みずほ銀行は信販会社のオリエントコーポレーションと、いずれもグループ内に保証会社を抱える。地方銀行も多くは消費者金融などの保証がつく。

銀行は保証料を消費者金融に払い、お金を借りた人が返済に行き詰まると、消費者金融が返済を肩代わりする。ノウハウのある消費者金融の「保証」があることで、銀行は安心してお金を貸せる。

2006年の貸金業法改正で、消費者金融は「年収の3分の1まで」という融資額の規制がかけられた。このため貸し出しは激減したが、最近規制がない銀行カードローンの「保証人」となり、実質的に貸し出しを増やす形になっている。消費者金融幹部は「銀行の看板を借りてお金を貸すようなものだ」という。地銀には、消費者金融が「保証」による収入を得ようとして接近している。地銀幹部は「ここ数年、大手の消費者金融が営業攻勢をかけて回った」と話す。この幹部によると、カードローンに参入した地銀で、審査が消費者金融会社任せになっているケースもあるという。



内銀行で、金利が12%以上の貸出金はこの4年間で約2倍と急増した。多くはカードローンとみられる。マネックス証券チーフアナリストの大槻奈那氏が約120行の業績を調べたところ、多くの銀行がカードローンの収益を伸ばしている。貸し出しなどの利益を示す「資金利益」の5割をカードローンで稼ぐ銀行もあったという。大槻氏は「目先の利益を優先し、消費者の保護が後回しになりつつあるのでは」と指摘する。

銀行のカードローンで多額のお金を借り、破産する人が目立つことから、弁護士からは、消費者金融と同様の規制を銀行にも求める声が出ている。一方、全国銀行協会は当面、加盟銀行の自主的な対応に任せる方針だ。

麻生太郎金融担当相は今月4日の衆院財務金融委員会で、「多重債務を防止する観点からしっかり対応することを期待する。いま直ちに（規制を）見直す状況にはない」と述べた。銀行カードローンの問題点が表面化しつつある中、業界が「自主的な取り組み」だけで過剰な融資を本当に防げるのかが問われている。

(藤田知也)

■カードローンに関する意見や情報をkeizai@asahi.comにお寄せ下さい。